

おち町

No.126

2018 (H30) 11/1
高知県越知町議会

議会だより OCHI TOWN



みんな見てね! 10/7 (3面参照)

9月定例会

- 6P 使い道を徹底検証 (29年度決算)
- 16P 県道18号緊急改良要望書を可決
- 22P 防災対策、中山間対策、観光行政など6人が問う (一般質問)

議会です
こんにちは

連載：若者登場⑤



山崎萌さん
(中央高校看護科3年 越知甲)

貞廣歩夢さん
(追手前高校3年 越知甲)

122号から若者に焦点を当て、インタビュー記事を掲載しています。今回は追手前高校普通科の貞廣歩夢さんと中央高校看護科の山崎萌さんに、お伺いしました。

議会を傍聴しませんか
9月定例会の傍聴者は延べ7人でした。次の定例会は12月7日開会の予定です。大勢の傍聴をお待ちしています。



問 通学方法は。
貞廣 西佐川駅までお母さんに送迎してもらっています。親は、大変だと思います。山崎 私は、さらに高知駅からスクールバスに乗ります。

問 食堂は。
貞廣 お母さんの手作り弁当です。
山崎 食堂が遠くなったのでお弁当にしました。

問 今やってみたくことは。
貞廣 卒業旅行で友達と韓国へ行ってみたいな。
山崎 Kポップのファンなので、私も韓国に行きたい。

問 越知町にどんなになってもらいたいですか。
貞廣 自然や町並みは、変わってほしくないです。
山崎 商店街のシャッターが閉まっていて寂しい。

問 越知町にあったらいいものは。
貞廣 フォトスポットと商店街のシャッターに絵を描いてインターネットでアピールしたりもできるのでは。

問 選挙に行きますか。
貞廣 行きます。
山崎 はい、私も行きます。

問 将来は。
貞廣 教育系の大学進学を目指しています。
山崎 看護師になりたい。

* 本日は、受験勉強などでお忙しい中、ありがとうございます。目標に向かって学生生活を楽しんでください。(取材班)

編集後記

広報委員長の任命を受け、新人議員2人を含め編集委員5人での改選後初めての発行です。
9月26日宮城県利府町へで広報の研修に行っていました。
りふ議会だよりは、28年度に全国1位となり、委員の役割分担ができており、責任を持ち自信に満ちあふれていました。
私たちも研修を生かし学ぶところは学び、分かりやすく読みやすい議会だよりを目指し、委員一同努力してまいります。
議会広報は、住民と議会との相互理解を深めていく手段として、大変重要であると思っています。
事務局の協力もいただき、これから4年間メンバーと仲良く紙面を作っていきたいと思えます。

《市原》

編集・発行責任者	議長 長寺村 晃幸
議会広報常任委員会	委員長 市原 静子
	副委員長 高橋 文一
	委員 小田 範博
	委員 森下 安志
	委員 箭野 久美

※分かりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見を寄せください。

ピックアップ

補正予算

一般会計補正3億3125万円

9月定例会は、7日から12日まで開き、平成29年度各会計決算10件、専決処分4件を全会一致で認定・承認。平成30年度補正予算など12件を可決しました。議員提案の「県道18号緊急改良についての要望書」〔16面に関連記事〕を全会一致で可決し、一般質問〔22面から〕は6人が防災対策・中山間対策・観光行政などの町政課題について執行部をたどりました。



台風で被災した農道柚ノ木線（上段）、後山の農道日浦線（下段）

【13面に関連記事】

農業土木施設災害復旧工事

1億6998万円



写真は町民バスの待合所が設置されるサンブラザ越知店駐車場

【12面に関連記事】

梅ノ森集会所建築工事 町民バス待合所建築工事

2695万円



返礼品の一番人気は、越知産季節の野菜セット

ふるさと寄付金謝礼

500万円

一般会計

Contents No.126 Nov 2018

2P 30年度補正予算 ピックアップ

29年度決算

4P キャンプ場事業に
5億9735万円

決算審査会

6P 使い道を徹底検証

議案質疑

12P 老朽住宅除去など

こんなことが決まったぜよ

16P 県道18号の緊急改良について
要望

17P 広域議会

視察研修報告

18P ○議会だより（利府町）
○東日本大震災被災地

6人が一般質問

22P 防災対策・中山間対策・観光行政など

議会ですこんにちは

28P 連載：若者登場⑤

今号の表紙



10月7日に幼稚園の運動会が行われ、子どもたちの元気な声が溢れていました。

30年度補正予算

会計名	補正額	総額	賛否
一般会計	3億3125万円	47億7979万円	賛成多数
特別会計			賛成全員
簡易水道	1146万円	3769万円	
下水道	459万円	1億6479万円	
国民健康保険	4942万円	8億2844万円	
介護保険	52万円	10億8182万円	
後期高齢者医療	167万円	1億2203万円	
横倉山自然の森博物館	7万円	2718万円	
土地取得	1289万円	1334万円	
水道会計	104万円	5156万円	

29年度一般会計歳出決算56億7922万円

キャンプ場事業に5億9735万円



4月22日にオープンしたスノーピークおち仁淀川キャンプフィールド(日ノ瀬)

監査委員意見・要旨(須内康仁・寺村晃幸)

一般会計

普通建設事業費の増

前年度に比べ歳入で、5億9078万円、歳出で6億6698万円の大増額決算となった。キャンプ場をはじめとする仁淀川を生かした体験型観光事業費が大幅に増加したことにより、普通建設事業費が4億4098万円増額となった。29年度末の町債残高は64億9897万円となり、財政的に非常に厳しい状況にあり、今後も慎重な財政運営が必要である。

水道会計

有収水量率が向上

有収水量率が85.4%と前年度より0.7%向上した。配水量・給水量ともに減量傾向にある中で、経費削減に努力されている。

有収水量率
水道貯水池から配水した水量と実際に使用された水量との比率。

下水道会計

加入率アップ

水洗化率は29年度末で58.7%(前年度58.6%)と向上した。引き続き、加入率アップに努めてもらいたい。

国保会計

過去最高の徴収率

現年分は、過去10年間で最高徴収率の98.0%(前年度97.2%)。過年度分は、前年度に収入が多かったことから、40.4%と6%の減となった。

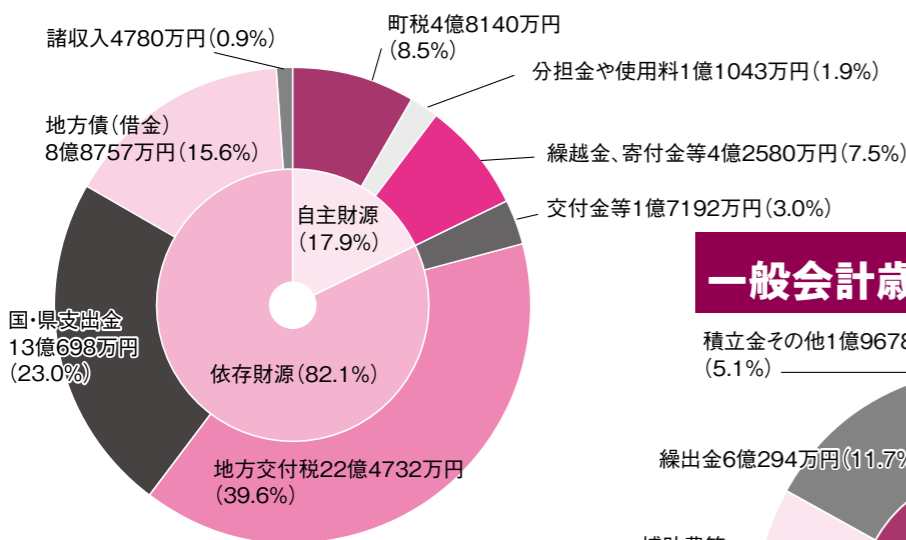
29年度会計別決算額

会計名	歳入	歳出
一般会計	56億7922万円	56億2469万円
簡易水道	2億4420万円	2億4413万円
下水道	1億7198万円	1億7090万円
国民健康保険	8億6620万円	8億1737万円
介護保険	11億1024万円	10億7456万円
後期高齢者医療	1億1958万円	1億1791万円
土地取得	553万円	553万円
蚕糸資料館	21万円	21万円
自然の森博物館	2603万円	2603万円
水道会計	5552万円	4398万円
合計	82億7871万円	81億2531万円

町民1人当たり98万円の支出

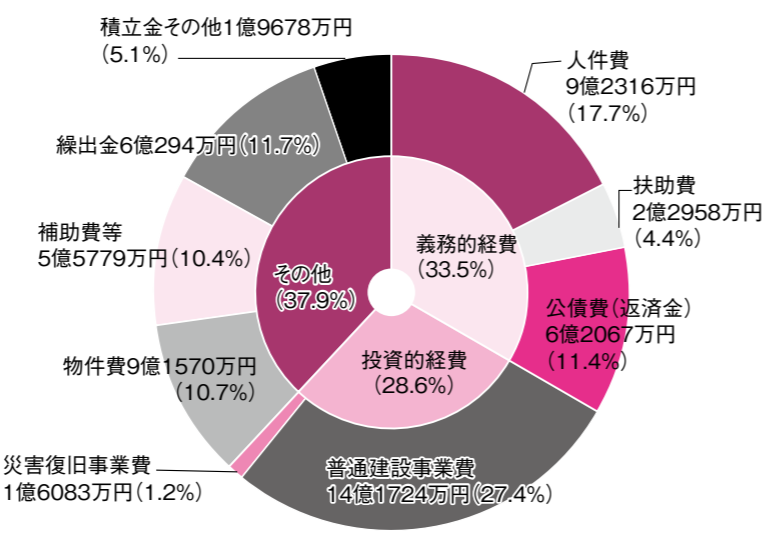
(30年3月末現在人口5714人)

一般会計歳入56億7922万円



29年度の各会計決算と基金の運用状況は、9月定例会で審議し、全ての会計を全会一致で認定しました。
【審議内容は6〜11面】

一般会計歳出56億2469万円



町債(借金) 残額64億9897万円
(対前年3億384万円の増)
基金(預金) 残金20億7371万円
(対前年7534万円の増)

財政の健全化判断		
指標	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	赤字なし	15.0%
連結実質赤字比率	赤字なし	20.0%
実質公債費比率	6.9%	25.0%
将来負担比率	67.7%	350.0%

用語指標の説明
●実質赤字比率 普通会計の標準財政規模に対する赤字の割合。
●連結実質赤字比率 町の全会計の標準財政規模に対する赤字の割合。
●実質公債費比率 町の標準財政規模に占める借金返済の割合。
●将来負担比率 町の標準財政規模に対する将来支払う負債の割合。350%以上で早期健全化団体となり、財政健全化計画の策定が義務付けられる。
※標準財政規模 補助金や借入金を除き、標準的に収入が見込まれる財源の規模。

町財政の健康診断
29年度決算の財政健全化判断と公営企業の経営健全化判断は、いずれも健全化基準を下回っており、赤字や資金不足は生じていない。今後も財政状況は厳しく、数値が悪化しないよう安定した財政運営が求められる。

経営健全化判断		
会計名	資金不足率	健全化基準
水道	不足なし	20.0%
簡易水道	不足なし	20.0%
下水道	不足なし	20.0%

基準を下回り『健全』

29年度決算審査会

使い道を徹底検証

【賛成全員で認定】

29年度の決算認定に係る決算審査会は、9月10日に全議員が出席して開催し、執行部に対しお金の使い道の徹底検証を行った。



決算審査会は審議内容の幅が広いので、係長以上の幹部職員が出席する

【以下は質疑の内容です】

【一般会計】

総務課

内訳は

山橋 総務費の土地借上料163万円の内訳は。

山橋 買い上げては。織田総務課長 現状では難しい。

山橋 職員駐車場、小学校西の通路、旧鎌井田保育所の3カ所

山橋 職員に負担がかかっていないが。

山橋 職員の駐車利用料金は。

小田 時間外勤務、特定の職員に負担がかかっていないが。
分析検討したい
國貞副町長 時間外の集計に基づいた異動を行ったが、部署により偏りがあり、今後も衛生委員会で分析し、臨時職員の活用と併せて検討したい。



小学校東側の職員駐車場

危機管理課

負担割合は一律か

岡林 県消防・防災ヘリコプター運行連絡協議会75万円は一律か。自主防災組織の整備はどこをしたか。

山室・佐之國を整備

危機管理課長 人口・面積・均等割の3つからなっており、一律ではない。自主防災組織は、山室と佐之國を整備した。

企画課

内容と効果は

市原 高知ファイティングドッグス事業の内容と効果は。

観光振興事業などに活用

大原企画課長 地方創生事業として、少年スポーツ等への指導者の派遣や空き家活用、観光振興事業などに活用した。

ホームタウン活性化事業は継続してやっているが、効果は未だ現れていない。

交流の成果は

武智 ホームタウン活性化事業で行ったファイティングドッグス・黒潮町との交流の成果は。

大原企画課長 FDファンが少なく反省している。



ファイティングドッグスと黒潮町との交流試合

何人分で成果は

箭野 地域おこし協力隊の報酬は何人分で成果は。

成果は

武智 CM制作放送42万2千円の成果は。

大原企画課長 数字的なものは押さえていない。

毎年増えているが

高橋 観光協会補助金は毎年増えているが。

大原企画課長 宮の前仮設力ヌー庫、おち駅休日対応によるものだ。

大原企画課長 企画課は、地域おこし協力隊事業で192万6千円、ゆるキヤラ制作事業で78万4千円、よこジロー法被などである。

協力隊事業など

織田総務課長 総務課は情報通信費の消耗品などで42万8千円である。

金額大きい

小田 企画振興費の消費品費金額大きい。

協力隊事業など

大原企画課長 企画課は、地域おこし協力隊事業で192万6千円、ゆるキヤラ制作事業で78万4千円、よこジロー法被などである。

大原企画課長 宮の前仮設力ヌー庫、おち駅休日対応によるものだ。

大原企画課長 数字的なものは押さえていない。



自主防災組織は51組織(平成29年度末)

産業課

高橋 未来革命おち220万円の内容は。

田村産業課長 新しくイ
ルミネーションをリニ
ーアルした。



リニューアルされたイルミネーション

事業の内容は

武智 農業次世代人材投
資事業825万円は。

田村産業課長 継続5人
と新規1人の決算となっ
ている。

岡林 野生鳥獣に強い県
づくり事業の内容を。

射撃場修繕負担金
田村産業課長 佐川町に
ある射撃場修繕に伴う負
担金だ。



農業を次世代へつなぐ(制度資金とは関係ありません)

高橋 有害鳥獣被害対策
事業の内訳を。

田村産業課長 イノシシ
308頭、サル11匹、シ
カ2頭、タヌキ375匹、
ハクビシン82匹、カラス
721羽。

内容に変更があったか
小田 多面的機能支払は
増えているが内容等に
更があったか。

活動組織が増えた
田村産業課長 29年度に
新しく活動組織が増えた
ことによるものだ。

有害鳥獣	有害鳥獣駆除頭数実績	
	28年度	29年度
イノシシ	190頭	→ 308頭
サル	5匹	→ 11匹
シカ	1頭	→ 2頭
タヌキ	206匹	→ 375匹
ハクビシン	56匹	→ 82匹
カラス	287羽	→ 721羽

前年度を大きく上回った

事業の内容を

市原 こうち農業確立支
援事業の内容を。

田村産業課長 JAコス
モス水耕ミツバ集出荷施
設の整備とミシマサイコ
の自動茎切機の導入。

場所と内容を

岡林 緊急間伐総合支援
事業の場所と森林整備促
進事業、協働の森交流事
業の内容を。

施業地の集約化

前田建設課長 緊急間伐
総合支援事業は、浅尾と
小日浦の2カ所。
森林整備促進事業は、
施業地の集約化。



作業道が整備され、間伐が進む山林

4者で協定

田村産業課長 協働の森
交流事業は、(株)ツムラ・
越知町・ヒューマンライ
フ土佐・県の4者で協定。

保健福祉課

利用率は

小田 地域ハイヤーチケット
事業598万円だが、利
用率は。

利用率は74・5%

國貞保健福祉課長 枚数
は1万686枚で利用率
は74・5%。

増額できないか

山橋 社会福祉協議会へ
補助金を増額できないか。

増額は難しい

國貞副町長 現状の把握
はしているが、補助金の
増額は難しい。

建設課

耐震率は

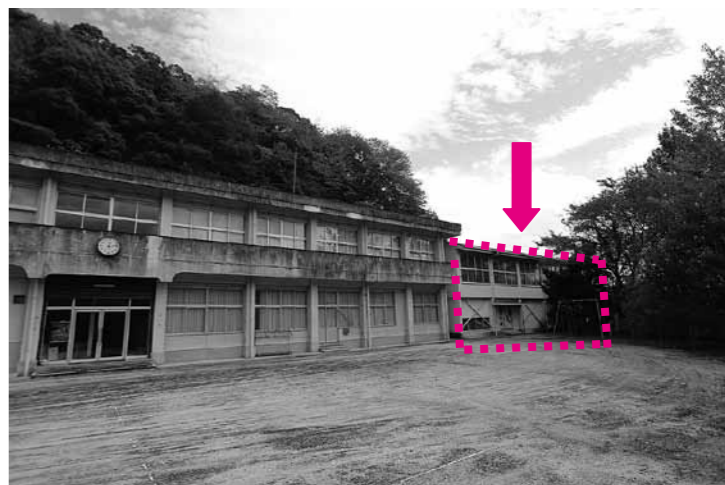
山橋 29年度までの町内
の耐震率は。

つかめていない

前田建設課長 分母とな
る昭和56年以前建築の戸
数がまだ確実につかめて
いないので、戸別訪問等
を行い把握したい。



保健福祉センター内にある社会福祉協議会



株式会社「岩や」に貸している旧黒石小学校体育館

教育委員会

減った理由は

高橋 旧黒石小清掃管理委託料が減った理由は。

谷岡教育次長 株式会社「岩や」に貸している分が減った。

税務課

内容は

山橋 不能欠損の内容は。

岡田税務課長 件数は7件で、死亡2人、行方不明2人、生活保護1人、預貯金なし1人、財産等不明1人。

土地取得事業

全部終わっているか

武智 83万円で、土地分筆は全部終わったか。

大原企画課長 全部を分筆した。



4区画中2区画が分譲中となっている1区定住促進住宅

【特別会計】

環境水道課

完了したか

岡林 野老山地区の簡易水道施設整備事業は完了したか。

3年間で完了

岡田環境水道課長 平成27年度から29年度までの3年間で完了となった。

水道会計

本来の姿に戻す決断を

小田 水道事業全般の決算は決算上1千万円以上の純利益を出していることになっている。

環境水道課の職員配置は、水道事業に実質3人

簡易水道

ぐらい関わっているのではないかと思うが、1人分となっている。実質営業収益が年々減少していく状況であるが、企業会計は独立採算制ということになっている。本来の姿に戻すような決断をしては。

國貞副町長 上水道事業に専任という形で3人配置している訳でない。

小田 料金改定も必要ではないか。

國貞副町長 検討しなければならぬ時期にきている。

下水道

原因は

武智 年度末未収入が39人とあるが、28年度は20人で、ほぼ倍になっているが、原因は。

3月分を納めていない

岡田環境水道課長 過年度からの滞納者だけでなく、3月分を納めていない人が含まれており、大きく滞納者が増えたというわけではない。

後期高齢者

増減があるか

岡林 年度末被保険者1312人、28年度と比べてどれくらい増減があるか。

30人の減

井上住民課長 28年度の年度末被保険者は1342人で、30人の減となっている。

【全体】

しっかりやっていく

國貞副町長 国が示す本年度骨太の方針では、地方交付税の水準を現状確保することになっている。歳出抑制は、新規発行債を抑え込むしか方法はない。事業者や町民に影響が及ばないように、事業選択をしっかりとっていく。

博物館事業

増えている原因は

武智 繰入金が増えている。507万円増えている原因は。

谷岡教育次長 20周年のイベントがあり、バルーン、CM放送の委託で増額となっている。

効果があったのか

武智 テレビCMは、観覧者が増やす目的で、その効果があったのか。

増員につながらなかった

谷岡教育次長 入場者を増やす目的で行ったが、結果的に増員につながらなかった。

イベントによって増減

谷岡教育次長 これまでの入館者数はイベントによって増減がある。団体客に多く来てもらえるようなアイデアを検討していかなければならないと考えている。

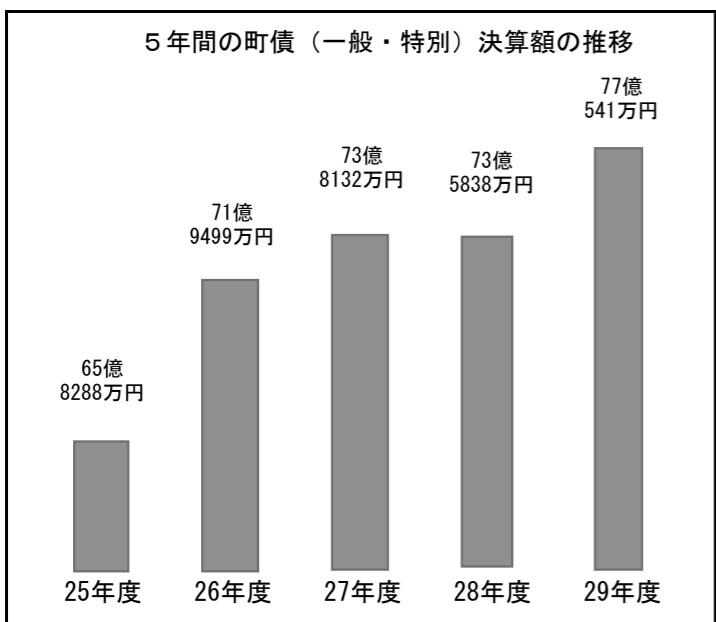
分析しているか

武智 人数が減ったこと、分析はしているか。

事業がなくなるのでは

山橋 29年度末町債残高が77億541万円あり財政的に非常に厳しい状況だが、30年度以降に今まで続けてきた事業がなくなるのでは。

5年間の町債（一般・特別）決算額の推移



一般会計補正

総務課

旅費の目的は

小田議員 総務費の旅費
55万円の内容は。

残りの下半期分

織田総務課長 本来、当初予算で全額計上すべきところを50パーセントで計上していた。
その残りの下半期分の出張の見込みについての計上である。

本年度中に完成か

山橋議員 梅ノ森集会所
建築工事の完成は、本年度中か。

31年3月完成

織田総務課長 31年3月末までに完成し、所要の登記手続きをして完了するように考えている。

ふるさと納税感謝祭

箭野議員 ふるさと納税
大感謝祭出店負担金とあるが、いつ、どこであるのか。

織田総務課長 11月10日・11日に、神奈川県横浜市中区で実施される予定である。



昨年11月に神奈川県で開催されたふるさと納税大感謝祭

弁護士顧問料

山橋議員 弁護士顧問料は当初に載っていたが、15万円というのはどういうことが説明を。

織田総務課長 当初予算で15万円を計上していたが、下半期分の15万円である。

近年、弁護士相談案件が多くなっている

平成 年 月 日	
顧問弁護士法律相談事前協議書	
副 町 長 様	
下記の事案について顧問弁護士に相談したいので、越知町顧問弁護士法律相談実施規程第3条の規定により協議します。	
相談件名	
相談事案の経過及び概要	

建設課

老朽住宅除去

武智議員 老朽住宅等除去事業2戸の場所と補助先は。

前田建設課長 小日浦、今成分の補正で、所有者に補助するものである。

武智議員 個人が壊すのが基本と思うが、老朽住宅等除去事業は、どのような条件のものが対象となるか。

前田建設課長 緊急避難道、人が行き来する道沿いで家が密集しており、倒壊によって隣の家に影響を及ぼすものが対象となる。

内容は、梁や屋根の陥没、シロアリに食われ基礎部分が分離した家屋など、老朽化の度合で判定し、100点を超えるものである。



近年、積雪量が多くなっている

災害復旧工事の内訳を

高橋議員 現年農業用施設災害復旧工事の内訳を。

前田建設課長 今回の台風で被災した柚ノ木、後山、深瀬の災害3件に対する補正である。

除雪業務

市原議員 土木費の除雪業務589万円は、雪が降ったときに除雪作業を行うためのものか。

前田建設課長 近年、積雪量が多く、除雪作業を業者に委託をするものがある。

工事の内訳を

高橋議員 町道西ノ芝4号線改良交付金概略設計の内訳を。

前田建設課長 平面図に線形を入れて、建物、用地等の取得面積と補償費等の検討材料にする。
また、概略設計、概略事業費にも利用できるようにしたい。



幅員の狭い町道西ノ芝4号線

評定内容	評点	最高評点
構造耐力上主要な部分である基礎が玉石であるもの	10	45
構造耐力上主要な部分である基礎がないもの	20	
外壁の構造が粗悪なもの(注)	25	100
柱が傾斜しているもの、土台又は柱が腐朽し、又は破損しているもの等小修理を要するもの	25	
基礎に不同沈下のあるもの、柱の傾斜が著しいもの、はりが腐朽し、又は破損しているもの、土台又は柱の数が所に腐行又は破損があるもの等大修理を要するもの	50	100
基礎、土台、柱又ははりの腐朽、破損又は変形が著しく崩壊の危険のあるもの	100	
外壁の仕上材料の剥落、腐行又は破損により、下地の露出しているもの(注)	15	100
外壁の仕上材料の剥落、腐行又は破損により、著し		

木造の住宅等の測定基準に基づき、老朽度を判定

企画課

借上げ目的は

武智議員 観光費の土地借上料の目的は。

仮置き場として

大原企画課長 当初予算で計上していたが、工期が延びることに伴い仮置き場の借り上げ期間の不足分を計上した。

業務の内容は

市原議員 越知町民話DVD作成業務54万円の内容は。

土佐の昔話

谷岡教育次長 越知町に伝わる「土佐の昔話」で、25話がテレビで放映されたものをDVDとして制作する。

一般向け貸し出し、保幼小中へ配布するため購入する。

賄材料費の内容は

小田議員 児童福祉施設費の賄材料費として36万1千円の内容は。

保育園の給食

谷岡教育次長 保育園給食費の後期分である。

教育委員会

市原議員 博物館管理費の備品購入費で監視カメラ一式40万6千円は、建物の中なのか、外なのか。

谷岡教育次長 外部を映しているカメラが故障したので、買い替える。



テレビで放送された土佐の昔話



特別会計補正

武智議員 柚ノ木配水設備は何軒分、どこかの辺りまでか、全部カバーするのか。

5世帯6人分

岡田環境水道課長 柚ノ木の上地区で、生活水に困窮する5世帯6人に給水するものである。



水道配水設備ができた柚ノ木の上地区

介護保険などの事務は 保健福祉センターに移りました

条例の一部改正制定

介護保険及び地域包括支援センターに関する事務を保健福祉課に移管することにより、福祉や介護、高齢者支援に関する窓口を保健福祉センターにまとめ、住民のみならずの手続きや相談などについて利便性を高める。

《賛成・全員》

住民課の空いたスペースに危機管理課が移りました 役場1階西側になります



受付窓口が設けられている



福祉センター1階に移った保健福祉課の様子



役場3階から1階に移った危機管理課

横倉山開発審議会庶務

横倉山開発審議会の庶務を、横倉山の観光等を考慮し総務課から企画課に移管する。

《賛成・全員》

山間部にお試し住宅

田舎暮らしを希望する移住希望者のニーズに対応するため、山間部の浅尾地区にお試し住宅1戸を新たに設置する。

《賛成・全員》

こんなことが決まったぜよ

県道18号緊急改良を要望 待避所を

県道18号の越知く出来地間は、着々と拡幅改良を進められているが、幅員が狭小なうえ急カーブな未改良区間があり、歩行者や通行車両が危険にさらされている。

また、30年4月にポスト維新博の目玉事業として、アウトドア施設スノーピークおち仁淀川キャンプフィールドが日ノ瀬地区にオープンしたことにより、新たな観光客の増加が期待される。

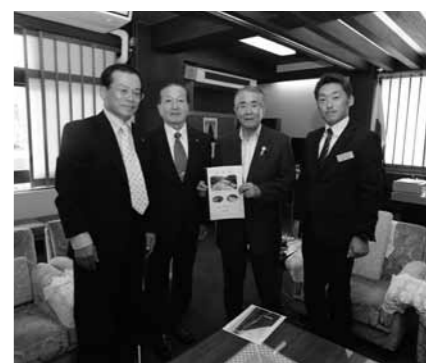
この施設利用者は、国道33号と194号から県道18号を使つてのアクセス道となるが、行き違いが困難なためトラブルが増大している。

緊急改良工事として、未改良区間の待避所を早急に設置していただきたく、本町議会の総意として要望する。

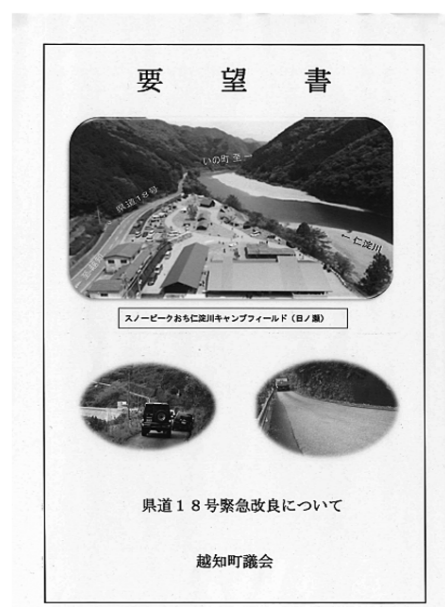
提出先 《賛成・全員》
高知県知事、高知県議会議員



村田県土木部長に説明する寺村議長



左から、武智産業建設常任委員長、寺村議長、土森県議会議員、大野県議会議員



こんなことが決まったぜよ

広域議会

第3回定例会が9月5日に開かれ、平成29年度各会計の決算を認定し、議長選挙が行われました。

組合長報告

運営状況は安定

特別養護老人ホームの事業活動収支は、人件費の増並びに入所、稼働率の低下で691万円の赤字となった。

運営状況は厳しさもあるが安定している。入所稼働率は改善しており、単年度黒字化を目指す。

全施設で増加傾向

待機者は、8月現在で春日荘56人、五葉荘36人もみじ荘2人、あがわ荘15人で、重複を含めて109人となっている。

介護保険制度の改革に伴い県内の老人保健施設の長期入所が厳しい状況となり、その受け皿として特別養護老人ホームの申し込みが増加したことが原因と考えられる。

清掃センター

基幹的施設整備工事は、2号炉の取り壊しが完了し、焼却炉本体の機械設備などの据付工事に着手している。

今後の予定は、2号焼却炉本体のガス冷却室構造物の組み立て後、耐火物施工並びに関連機器の更新を順次行う。



更新工事が行われている清掃センター2号炉

決算認定(29年度)

会計名	歳入	歳出	
一般会計	8億9576万円	8億945万円	
特別会計	特別養護老人ホーム	13億1167万円	11億6356万円
	養護老人ホーム	1億3349万円	1億802万円
	障害者支援施設	2億9072万円	1億5983万円
	ふるさと市町村圏	3190万円	2249万円
合計	26億6354万円	22億6335万円	

人事

議長選挙

●寺村晃幸氏(越知町)

《指名推薦》



小田範博(柴尾)



市原静子(12区)



寺村晃幸(2区)

●議員改選により高吾北広域の議員となった越知町選出3名の議員。任期は、4年間。

宮城県 利府議会だより 第31回全国コンクール 第1位に学ぶ

住民の皆さんに議会活動をより良く伝えるために、全国第1位となった宮城県利府町議会で研修を行ってきました。



方法は

(越知町) スキルアップのための研修や方法は。

(利府町) 全国や郡の研究会に参加、広報クリニックを受け、あとは伝統が根付いている。

秘訣は

(越知町) 全国トップクラスを維持する秘訣は。

(利府町) 表紙に関して指摘されるが、クリムゾンレッドの楽天カラー、このパターンを一貫している。紙面が大胆に見えるので、印象に残るのでしよう。自分たちの考え方を一本貫いていくということが重要だと思います。

・平成29年2月、第31回町村議会広報コンクールで最優秀賞(全国町村議会第1位)

表紙は

(越知町) 表紙はすべて子どもを使っているが、ずばり狙いは。

紙面は

(越知町) 空白と写真の割合が絶妙ですが、長年培ってきたものですか。

(利府町) 空白の割合を決めて編集しています。

(利府町) 最新の学校行事等の写真を載せている。インパクトが強いので、最近はずばりの写真を好んで使っている。



利府町広報委員会に学ぶ研修状況

研修を終えて

利府町議会の議員一人一人の編集能力の高さに驚きました。越知町議会としても貴重な研修でした。今までの越知町スタイルを継続しつつ、利府町の大胆さや方法などを参考にし、今後の紙面づくりに生かしたいと思っています。

女川町など東日本大震災被災地を視察

女川町

どう動いたか

災害対策本部は、平成23年3月11日14時50分頃、気象庁の大津波警報を受け、無線放送で避難誘導の指示をした。放送を始めて約20分後津波が押し寄せた。

役場庁舎2階にいた防災係長は、この津波を見るとすぐに、「大きな津波が押し寄せています。至急高台に避難してください」と繰り返し指示を指示し、庁舎内の職員に「全員屋上に退避」の指示を出し続けました。防波堤を乗り越えた津波はスピードを加速させながら、数波に及ぶ巨大な津波と、その引き波で市街地を根こそぎ破壊していききました。



平成23年3月12日撮影



平成30年7月16日撮影

復旧が進む女川地区

東日本大震災による女川町の被害・復旧状況

○地震・津波の概要

発生日時 平成23年3月11日(金) 14時46分
震源 三陸沖 深さ24km
規模 マグニチュード9.0 震度6弱
最大津波高 14.8m (港湾空港技術研究所調査)
浸水区域 3.2km² (国土交通省被災状況調査)
被害区域 2.4km² (宮城県発表)

※津波の概要は上のおりであるが、女川町調べでは津波浸水高が最大で20.3mに達し、町中心部の海拔16mの高台に建つ「女川町立病院(現地域医療センター)」は1階天井近くまで津波が押し寄せた。

○人的被害

町人口 10,014名 (H23.3.11時点)
死者 574名 (H27.7.31時点)
死亡認定者 253名 (震災行方不明者で死亡届を受理された者)
関連死者 22名 (震災が起因となって死亡した者)

※女川町の人的被害は、東日本大震災で被害を受けた市町村のうち、人口に占める人的被害者の比率が最も高く、8.2%に達している。

災害対策本部調べ

○被災建物数

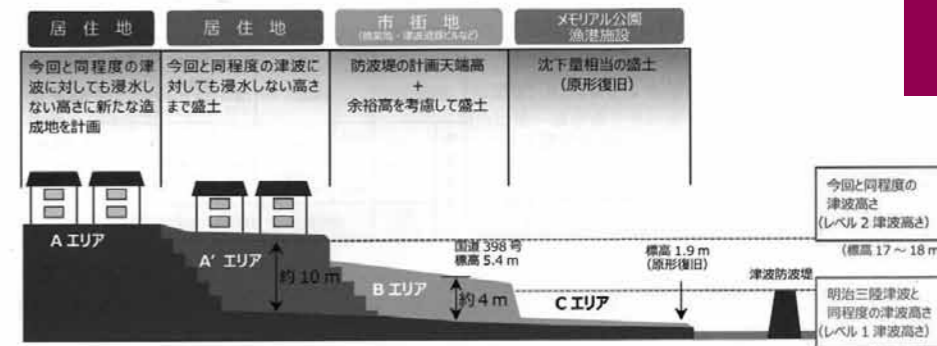
	住家(一般的な家屋)	非住家(会社・倉庫等)
総数	4,411棟	2,100棟
全壊	2,924棟 (66.3%)	1,394棟 (66.4%)
大規模半壊	149棟 (3.3%)	36棟 (1.7%)
半壊	200棟 (4.6%)	54棟 (2.5%)
一部損壊	661棟 (15.0%)	147棟 (7.1%)
被害なし	477棟 (10.8%)	469棟 (22.3%)

税務課調べ

どう変わってしまったか。

震災前の平成22年と平成23年の町勢を示す人口、世帯数、子どもの数、医療施設数などの民生面でも、事業所数、従業員数、魚市場水揚高、製品出荷額などの産業面でも大幅に減少した。

○湾口防波堤復旧工事と国道嵩上げによる津波対策
 ・中心部に町役場などの公共施設や、高齢者などが利用する公益施設を集約。
 ・女川駅周辺や国道398号線沿いには商業・業務エリアを設け、居住地は安全な高台に整備。
 ・市街地周辺部の山を切り崩し、その土で低地を嵩上げる。



30、40代の若者が町づくりの中心

「まちびらきワーキンググループ」には、20代から70代まで、幅広く参加している。

これからのまちづくりに、還暦以上は口を出さずにサポートする。若い世代が、前面に立って頑張れ。
 チームづくりをしたわけではなく、女川全体が1つのチームになりました。



震災の資料館となっている旧野蒜駅

野蒜地区

ボランティアガイド(自身が被災者)から説明を受けた。

避難途中に引き返すことによって命を落とした人がいる。一度家を出たら引き返すことはしてはいけない。

指示に従うことが大事になる。

野蒜地区は変わってしまったけれどもこれからが本当のまちづくり。訪れてもらえる町づくりをしていきたい。

荒浜小学校



多くの命が助かった荒浜小学校

震災遺構として見学した荒浜小学校では、津波は2階まで押し寄せたが、児童や教職員、住民ら320人が避難し助かっている。

海岸線に沿うように800世帯、2200人の人々が暮らす荒浜地区の集落は、津波によって飲み込まれた。

本町での今後の取り組み

11月に全員協議会開催し、本町での取り組みを協議する予定である。



市街地(Bエリア)



利府町役場から市街地を望む

大川小学校

河口から5キロメートルの距離にある学校。津波で児童84人、教職員10人が亡くなっている。地震後の学校の対応は、裏山に逃げる意見と、校庭にとどまり続ける意見が対立。小学校は避難所

でもあるので、すでに避難してきている老人もいた。地区の区長の「ここまで来るはずないから」という意識が惨事を大きくしたようだ。



手付かずの状況が続く大川小学校

一般質問

町政を問う

【22ページから】

小田範博・22ページ
 ①環境対策
 ②山間集落の水道施設の現状

高橋文一・23ページ
 ①観光行政
 ②高齢者対策
 ③町有財産

市原静子・24ページ
 ①防災対策
 ②子どもの命を守る対策

岡林 学・25ページ
 ①道路行政
 ②保育園児の安全と園の整備改修を
 ③スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド

武智 龍・26ページ
 ①中山間対策
 ②集落維持

箭野久美・27ページ
 ①防災対策
 ②交通安全対策
 ③福祉

ズバリ!!



高橋 文一 議員

観光行政

ポスト維新博後の準備は 補助金の利用を検討する

企画課長

問 県はポスト維新博後に自然・体験型の観光資源を磨き上げる補助金に2億円を用意している。本町も宮の前公園を中心にした整備を考え、隠れた場所や新たな取り組みを調査し、利用してはどうか。

大原企画課長 現在ある観光地や今後観光地にしていきたい所を再調査し、補助金の利用を検討していく。



建設中の宮の前センターハウス

小田町長 キャンプ場オープンで先陣を切ったので、何を優先すべきかを検討し積極的に活用したい。

一般客も利用可能か

問 宮の前センターハウスはスノーピークが指定管理者だが、トイレ、シャワールの一般客の利用は可能か。

問 山間集落の住民の足である町民バスは便利になったが、市街地や周辺の高齢者のことも考えてもらえないか。

また、子どもから高齢者まで、休憩や談笑できる「越知のまち小屋」の計画と場所は。

織田総務課長 買い物や病院等で足に困っていると高齢者等は現実にいる

大原企画課長 休憩ポイントはどのような場所が効果的なのか意見を集約し、用地の選定と施設の検討を進める。なお、町有地では3区と8区を考

高齢者対策 高齢者のことも考えて 関係者と協議したい

総務課長

問 6区には救急車も入れない道路がある。入り口には町の共有地があり、有効に活用して拡幅できないか。

前田建設課長 6区の町道西ノ芝4号線は、18年頃に拡幅を検討した経緯があり、さまざまな問題が生じていたが再検討を始めた。

小田町長 共有者と協議をするのに少し時間をいただきたい。

今後予算の許す限り解消に努めていく。

環境対策

久万目川周辺的美観整備を 関係者の協力を求めたい

産業課長



小田 範博 議員

問 久万目川周辺の雑木林撤去はできないか。木が大きくなくなったことで、洪水のたびにさまざまなごみが置き土産として目につくが町の対応は。

田村産業課長 浸水する耕地であり、10年前から耕作放棄が進み現在の姿となった。個人に所有権があり行政が勝手に手を出せないが、農業委員会と連携し関係者の協力を求めたい。

作業班の出動は

問 早急な対応が望まれるが作業班の出動は。

前田建設課長 個人所有財産への出動は、課題がある。

取り組みは

問 黒土団地東側の宅地崩落から1年たつが、現場に全く進展がない。放置すれば新たな災害も予想されるが取り組み状況を聞く。



耕作放棄が目立つ久万目川周辺の土地

前田建設課長 被災当時の見解では、個人の宅地であり町の管理する公共物への関連がないので、県に相談するよう助言していたが、県も管轄外で対応できないとのことだったと聞いている。

その後、国・県との協議を重ねた結果、国費の対象となる事業が見つかり検討中である。

問 国の補助率は。県や町の補助はできないか。

前田建設課長 国の補助率は25パーセントだ。県は制度的なものがなく対応できないとのこと。町も同様の見解である。

**山間集落の水道施設の現状
維持管理ができなくなっている状況だが
早急な検討が必要だ**

環境水道課長

問 水道法の適用を受けない水道施設数を聞く。

岡田環境水道課長 6地区で36カ所存在する。その他、個人施設が15カ所ある。

問 生活を営む上で欠かすことのできないものの一つが水だが、高齢化や人口減少によって、日常的な維持管理ができなくなっている状況だが今後の対応は。

岡田環境水道課長 今までは、日常的な維持管理は地元でお願いしてきた。今後の対応は早急な検討が必要だと考えている。

問 統合計画から外れる山間集落の水道施設は、今後さらに地元負担が増大するが。

岡田環境水道課長 統合計画に載らない施設も不公平感のない対応が必要であり、生活の維持ができる対応をする。

町有財産

問 6区には救急車も入れない道路がある。入り口には町の共有地があり、有効に活用して拡幅できないか。

防災対策

大渡ダム崩壊が心配

震度6強程度まで影響のない設計



市原静子 議員

危機管理課長

上田危機管理課長 本町では、過去のデータをもとに、浸水する可能性がある場所を設定している。広範囲にわたる場合は、防災行政無線、車での放送も利用して避難を促すようにしている。

問 西日本豪雨で、ダムの緊急放流により、住民が犠牲になった問題が波紋を広げている。

本町でも同じことが起きた場合の対策は。

また、大渡ダムが地震で崩壊すると、大きな被害がおきるのでないか心配であるとの声があるが対策は。

大渡ダムの地震対策は、ホームページで「ダム本体をつくる時に、震度6強程度まで影響のない設計となっている。これ以上の震度の地震であつても、すぐさま倒壊ということはない」と掲載されている。

問 北海道では、震度7で想定外の土砂災害が起きている。

上田危機管理課長 万が一ダムが崩壊した場合は、できる限り早く、高い場所に避難するようあらゆる手段を使って、伝達すべきと考えている。

問 液体ミルクを備蓄品とする考えはないか。

上田危機管理課長 中央西保健所に確認したところ、基準をクリアした輸入品・国内品はないとのこと。備蓄していない。

問 実際に東日本大震災や熊本地震でフィナンランド製品の援助物資として、液体ミルクが被災者に届けられ母親から歓迎された。

国産品は、製造販売される時期はまだ1年以上かかるが、検討する価値があるのでは。

上田危機管理課長 調査、検討していく。

子どもの命を守る対策

安全性の確保はできているか

検討している 教育次長

● 乳児用液体ミルク
誕生から12カ月までの乳児が母乳の代わりとして飲むことができ、調整された液体のミルクのこと。

問 学校施設や通学路におけるブロック塀等の安全性の確保はできているのか。

谷岡教育次長 文科省が全国の学校施設のブロック塀調査を実施している。

小学校・幼稚園・保育園は、撤去し倒壊による事故をなくす方向で検討している。
また通学にはできるだけ広い道を通り、ブロック塀の反対側を通行するように指導している。



通学路にあるブロック塀

道路行政

通行止めを知らせる看板を対策を講じている

建設課長



岡林学 議員

問 中学校前の沈下橋が通行止めの時、横島、鎌井田方面からの車は、橋で引き返さなければならぬ。

通行止めの分かる看板の設置を。

前田建設課長 通行止めを周知するよう、本年7月に対策を講じている。

県道と町道交差点にある地域情報板に表示しているが、他の情報も一緒に目立ちにくいので、独立して設置した。

保育園児の安全と園の整備改修を

問 現在113人が通園しているが、役場と園の間は道路が狭く危険だ。

役場の駐輪場の一部を道路にすれば安全になるが、対処できないか。

前田建設課長 通行車両も多く、見通しも悪いので拡幅はしたいが、周辺一帯を整備しなければ安全な道は造れない。

独立して設置された冠水注意通行止の看板



地域情報板



小田町長 駐輪場の町財産を使うことは可能だが、横断歩道がより安全だと思うので検討したい。

問 雨漏りとホールの白アリ対策、庭の改修は。

谷岡教育次長 雨漏りの修理は、9月補正に計上している。

白アリは、29年度に一部改修したが、全面的な対策が必要で、調査し検討したい。
庭は、町作業班で土の入れ替えと、プールの下にも土遊びができるよう真土を補充する。

小田町長 施設整備は、毎年PTA連合会と教育懇談会を開き、必要なことからやっていきたい。

スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド

大原企画課長 町市街地活性化計画策定委員会を立ち上げ、協議を重ね、実効性のある計画ができつつある。

問 4月オープンからの利用者数とスタッフ、町内での食材購入などの経済効果は。

大原企画課長 8月までの利用者は、4794人で、町内35人、県内1236人である。

県外の7割は、関西、中国方面からで、食材は本町での調達が多いと、管理者から聞いている。

正社員3人は、スノーピークの社員で、アルバイト1人は、町内での応募がなく、町外からの採用となった。

問 この施設は、多額の補助金と町財源で建設された。町活性化につなげなければ意味がない。商工会や他の協力体制も必要だが、話し合いは。



武智 龍 議員

地域経済に打撃

問 170戸の農家でサンシヨが栽培されており、延べ約2万5000人の雇用を生み出しているが、半分以上が70歳以上で廃業が相次いでいる。

このままでは農地が荒れ、地域経済にも大きな打撃となる。後継者探しは緊急課題だ。

後継者確保は第一

小田町長 後継者の確保は第一だ。5年以内の対応が必要だと思うが、さらにもう少し深く考えていきたい。

田村産業課長 生産団体は、他人にも貸借や譲渡できるよう制限を緩和した。

地域おこし協力隊の1人もサンシヨ栽培に興味を持ち、就農に向けて準備を始めている。

今後も、都市部での移住や就農相談会で、紹介していく。

募集方法工夫せよ

問 来年から東京圏の若者が地方に移住して起業した場合、国が最高300万円の補助金を出すとの報道があった。

「サンシヨ農家の後継者になりませんか」という募集をしてみようか。

制度を利用したい

田村建設課長 農業で起業したい人に制度が使えるのはありがたい。今の隊員等とも話しながら考えていこう。

集落維持

新たな取り組みが必要だ

区長会で町の考えを示す

総務課長

問 人口1けた台の集落が6つあるが、高齢者が多く、台風時に不安を感じ草刈りなどができなくなっている。

また、区長会などに出ることも負担になっており、区制度を見直すべきだという声が出ている。新たな取り組みが必要ではないか。

小田町長

大桐と野老山地区に集落支援員を1人ずつ配置しているが、もう少し増やしたい。

横島の集落活動センターもモデルケースとして広げたい。

制度の活用を

問 集落活動センターはシェアハウスの新設なども可能であり、集落支援員の活動拠点にすれば、避難所としても安心して使える。

制度の活用が課題解決につながるのではないかと考える。

町の考えを示す

織田総務課長 区長会総会で、集落活動センター制度の活用など町の考え方を示し、地域を支える新たな仕組みを考えたい。

草刈りに支援を

問 大桐地区の農家から隣接する耕作放棄地がイノシシの隠れ家になり困っているが、草刈りなどを支援してもらえないかと相談を受けた。

地域の全住民参加の取り組みが必要ではないか。

仕組みが必要

田村産業課長 今後は総合的な考えで、地域を支える仕組みが必要である。

中山間対策

農業後継者探しは緊急課題だ

5年以内の確保に取り組む 町長

防災対策

町民に知ってもらうための対策は

広報、ホームページに掲載

危機管理課長

問 危険と思われるブロック塀等の撤去は緊急課題の1つであり、補助制度もあるが、広く町民に知ってもらえるための対策は。

上田危機管理課長 広報おち、町ホームページに掲載しており、耐震診断の戸別訪問のときや、防災訓練のときにも説明するようにしている。

災害時協定井戸を

問 井戸は災害に強いことが分かっているが、災害時協定井戸の整備についてどう考えているか。

調べていきたい

上田危機管理課長 井戸は災害時有効な設備と思われる。今後調査研究し、井戸に関して町全体で調べていきたい。



昔は、生活水として井戸水を利用していた

●災害時協力井戸 災害時協力井戸とは、大規模な地震等の災害が発生し、水道の給水が停止した場合に、近隣の被災者へ飲用水以外の生活用水（洗濯やトイレ等の水）を提供しただけの井戸として登録されたものをいう。

交通安全対策

講習を開くことは

できないか

問 自転車の乗り方を大人も子どもも一緒に交通安全を学び、ルールを守ってマナーアップさせるような講習を開くことはできないか。

山中教育長

保育園、幼稚園、小学校、中学校それぞれテーマをもって交通安全教室を行っている。高齢者等の講習は時々やっているが、まずは小・中学校からの交通安全教育が大事ではないかと思っている。

福祉

何か対策や考えは

問 国民年金受給者が入る高齢者施設が望まれている。地域でできることを模索しなければならぬが、対策は。

研究検討を進める

井上住民課長 県の掲げる日本一の健康長寿県構想計画に基づき、住みなれた地域で生活できる在宅の福祉サービスの充実、負担軽減の自立支援、重度化防止の取り組みを行っている。

施設入所のニーズも把握し研究検討を進めたい。

問 観光や地域の活性化のために、ごみ処理場の排熱を利用して温湯施設などできないか。

小田町長 現状の処理能力では無理であるが、温泉施設が近ごろ注目されているしニーズもあるもので、将来的には考えていきたい。